

写真甲子園2018、第34回国際写真フェスティバル、
第4回高校生国際交流写真フェスティバル、どんとこい祭り

国際色さらに豊か、フォトフェスタ

夏恒例、写真の町ひがしかわの国際写真フェスティバルが7月31日(火)から8月30日(水)まで、1カ月間のロングランで開幕します。メインイベントの「写真甲子園2018」「第34回東川町国際写真フェスティバル」、19カ国・地域21チームの高校生が写真を通して集い交流する「第4回高校生国際交流写真フェスティバル」、写真の町東川賞の授賞式と受賞作家トークショーなどが満載。前夜祭・花火大会をスタートに、どんとこい祭りと併せて期間中の8月4、5の2日間をピークに国際色豊かな真夏の写真まつり到来!

写真甲子園2018

7月31日から8月8日までのメイン会期9日間のうち、前半7月31日から8月3日の4日間は、全国の高校写真部の代表19チームが東川、旭川、美瑛、上富良野、東神楽の広い大地を舞台に、写真作品作りを競い合う第25回全国高等学校写真選手権大会「写真甲子園2018」。

初戦応募校は道内46校など513校を数え、6年連続で500校超えを更新しました。初応募校は71校、初回大会から25回連続応募校は4校でした。

全国19校の選出は、各ブロック代表各1校に加え、応募校数に応じてドント方式で倍率枠を配分した他、全国から優秀な学校が選ばれる選抜枠が3校となり、初戦審査と各ブロック別の公開審査会を通して決定しました。

第4回高校生国際交流写真フェスティバル

第4回高校生国際交流写真フェスティバル(ユースフェスティバル)は、海外各国からの高校生参加校がさらに広がり、拡充します。

海外選抜校は、シンガポール、フィンランド、マレーシア、モンゴル、ロシア5カ国の高校チームが新たに加わり、それぞれ1校ずつ参加チームが増えました。

その結果、今年の出場チームは、中国、韓国、台湾、タイ、ベトナム、ウズベキスタン、インドネシア、オーストラリア、カナダ、ラトビア、アメリカ合衆国、ミャンマー、マレーシアの13カ国チームを加えて18カ国・地域から各1校、日本から道内2校(1校は地元、東川高校)と道外枠で宮城県白石工業高校(白石市)の3校合わせて21校に増えました(順不同、出場校6ページを参照)。

東川町内で写真撮影し、撮影後は作品セレクト、チーム作品を作り上げます。

仕上げた作品は、審査委員審査(7人)とインターネット投票で世界中からの評価を競います(8ページ3を参照)。

国際写真フェスティバル

8月4日(土)、5日(日)の後半2日間は、「第34回写真の町東川賞」の授賞式を中心とする国際写真フェスティバル(フォトフェスタ2018)、どんとこい祭りで東川の夏まつりが最高潮に盛り上がります。

せんとびゅあー講堂(旧称・文化芸術交流センター)では、映画「写真甲子園0.5秒の夏」の上映会(4日、5日)に加えて、初回から写真甲子園審査委員長を務めてきた写真家、立木義浩さんの写真展「PLAIN SLICE」(7月7日-8月

26日、ギャラリー2)を開催します(8ページ1参照)。

道の駅・道草館ではソニーフォトワークショップ「東川を撮る」講師、明治の家(羽衣公園)では、フォトふれNEXT PROJECT EXHIBITION 2018(4日、5日)を開きます。

赤れんが倉庫では、赤れんが写真展「赤れんがポートフォリオオーディション」展「プリ受賞者作品展(Lily Show)」、東川アーティストインレジデンス作品展(4日、5日)も開催します。



ストリートフォトギャラリー(昨年7月29日、文化ギャラリー前庭)



前夜祭ストリート(昨年7月29日、羽衣公園)